

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human_Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘 (1階)		
所在地	小樽市長橋 2丁目2番4号		
自己評価作成日	平成26年12月26日	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームで、毎年夏になるとホーム前の芝生では焼肉パーティが恒例となっています。そこには穏やかに自分らしく過ごされている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0172000721-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0172000721-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の4つのグループホームの中で最初に設立された、開設11年のホームです。高台の住宅街に建つホームの窓からは海が見え、利用者は美しい景観を楽しんでいます。地域の子供達や中学生、高校生、社協ボランティア等が来訪し、地域との深い繋がりを構築しているホームです。重度化や看取りに関する丁寧な指針、対応マニュアルを作成し、手厚い医療体制の下、医師、看護師、職員が連携して看取りに取り組んでいます。代表者及び管理者は、職員の意見や要望の吸い上げに努め、積極的に運営に活かしています。職員はホーム独自の自分チェック表により毎日自分の健康状態やケアを振り返り、管理者が閲覧の上、丁寧な助言、指導をしています。また研修体制が充実しており、職員が働きやすい環境整備に努めています。職員は常に理念を念頭に、優しく穏やかに利用者へ接しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネーム裏に理念をいれて普段から読み、理念に沿ったケアができているか振り返っています。	ホーム独自の理念をホーム内に掲示し、パンフレット、ホーム便りに掲載しています。新人研修でも取り上げ職員間で共有しています。また地域密着を意識し理念を見直しました。更に理念を軸として月毎に目標を設定し、実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の廃品回収の参加や子供みこしの休憩場所となっている。また近隣のグループホームの夏祭りに入居者様と参加したり町内中学生が合唱を披露したり一緒に歌を歌ったりしています。	地域の夏祭りや近隣の子ども達の来訪、中学生による定期的な合唱披露、高校生の職業体験やボランティアも受け入れています。またホームの行事では社協ボランティアが歌や踊り等を披露しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の掲示板に行事をお知らせしたり、チラシを近隣に配ったりして行事のお知らせをして参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的に会議を開催しており、町内会長、民生員、介護保険課、地域包括センター職員、入居者、またその家族様などに参加助言して頂き、会議議事録は家族様に送付されています。	市担当者や利用者も参加し、防災、感染症、虐待防止、外部評価等多様な議題で活発な意見交換が行われています。音楽療法の見学、昼食を一緒に食べる等地域住民に利用者の様子を知ってもらうよう努めています。案内、議事録は家族に送付しています。	家族の参加を呼びかけていますが、参加が少ない状況にあり、さらに多くの家族の参加を得られるよう、引き続き取り組みの工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話などで連絡して相談し、また出向いたりもしています。市が主催する集団指導にも必ず参加しています。	生活保護課職員来訪時、書類提出時には利用者の状況やホームの実情を伝え、不明な点は都度電話で助言、指導を受けています。市主催の集団指導、グループホーム協議会主催の研修会に参加し、市担当者及び同業者と情報交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加し、報告書を書いて頂き回覧し全体に認識してもらい、また研修会に参加した職員による研修会も開催しています。	虐待防止委員会を設置し、外部研修及び伝達研修で身体拘束防止について学んでいます。職員は毎日自分チェック表で自身の健康状態やケアの振り返りを行い、管理者が閲覧の上、必要時には話を聞いています。玄関の施錠は夜間のみとし、センサーで人の出入りを把握し声かけしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などでケアの見直しをしたり、自分チェック表を作成して1日1日のケアを振り返っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を必要とされている入居者様がおおり、後見人の方と密に連絡を取り話し合いをし支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすく説明しご本人ご家族の要望をお聞きし支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表情、言動から入居者様の不安を感じとってカンファレンスを行いまた面会時ご家族と話しをし申し送りノートなどで共有しています。	家族来訪時は声かけし、意見や要望の把握に努めています。家族からは体調面や外出の希望、薬の変更、服装等に関して細かな意見、要望が忌憚なく出され、申し送りや連絡ノートを通して職員間で情報を共有しながら迅速に対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	表情などをみて話し合ったり月に1回職員面談などをしてコミュニケーションを図っている。	月一回の全体会議には代表者も出席し、さらに管理者が随時個別面談を行い、職員の意見、要望の把握に努めています。職員はレク、広報、環境美化、感染症予防等の各係を分担し、運営に携わっています。また日勤リーダーの職員がその日のケアの中心となり、責任を持つ体制となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、向上心をもって働けるように仕事をまかせるようにしています。外部研修などにも参加しスキルアップができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加した職員は報告書を提出し回覧したりしています、また会議のなかで発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したり、他のホームのお祭りに参加したりして交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望などを傾聴してご本人が安心していただけるよう信頼関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安なこと要望があれば面会の際にコミュニケーションをとり意向を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いが実現できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を尊敬し喜怒哀楽を共にして信頼関係を築くように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報や面会時で日常の様子をお知らせしたり、行事がある時は参加を誘ったりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があれば買い物、ドライブ、食事、映画などの外出を支援しています。	職員が同行し、自宅を見に行ったり、ドライブがてら買い物、外食等に出かけています。利用者の友人、知人が来訪することもあり、居室でゆっくり過ごしていただいています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が食事の時、コーヒータイム、おやつの時など職員が会話にまざり交流できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が入院した際はお見舞いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から言動、表情からご本人の思いをくみ取るように努めています。また困難な場合はご家族から情報を得て支援につながるようにしています。	難聴の利用者には筆談で意思疎通を図っています。家族からも生活歴や好み等の情報を得ています。申し送りノート、基本情報(独自のアセスメントシート)により職員間で情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やご家族から情報を収集してご本人にあったサービスを心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことを生活の中から見つけだし、その人らしい生活ができるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人らしく毎日生活を過ごして頂くよう介護記録や申し送りノートでカンファレンスで話し合っ情報共有して介護計画を作成しています。	計画作成担当者が利用者、家族の意向を確認し、カンファレンスで職員の情報、意見を出し合い介護計画を作成しています。介護計画は3ヵ月毎に見直すと共に状況に変化があれば随時見直しています。	介護計画及び介護記録について、職員の気づきや、どのように対応していくのかといった具体的な記載、また介護計画と連動した介護記録の書式の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個人別に記入しファイルに保存している。ご本人の話された言葉表情を記録し申し送りノートで職員同士共有し介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院送迎、選挙への投票所の送迎、買い物、24時間の面接など柔軟性を持ち、支援とサービス向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアを活用してご本人の心身の活性、楽しみを支援しています。また近隣グループホームのお祭りに参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医が往診にきています。必要ならば歯科往診も受けています。ご本人、ご家族の要望に応じ病院受診も支援しています。	かかりつけ医の受診は家族と協力して支援し、受診内容については情報共有しています。3つの協力医療機関の医師が定期的に往診し、緊急時の協力体制も整っています。毎朝のテレビ会議に看護師も参加し、連携して支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が入居者様の現状を把握し介護職員が気づいた事を伝えて24時間体制をとり指示をしてもらえるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、医師と情報交換をしており、またお見舞いの際ご家族と話し合う場をもうけ退院された時は支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様に変化があったごとに医師、看護師、ご家族と話し合う場をもうけご本人の思いをくみ取り職員で統一したケアに取り組んでいます。	指針に基づき入居時に説明していますが、看取りの時期に再度医療関係者、家族、職員で話し合い、意向確認書、対応マニュアルを作成します。管理者は夜勤の時など職員が不安にならないよう声かけしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災時の対応マニュアルを作成し月に1~2回のシミュレーション訓練を行い全職員に周知している。救急講習を全職員に研修しており、またAED講習も定期的に研修しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を夜間想定して実施している。町内会の人達にも参加してもらっています。また近隣グループホームと協力体制をとり避難場所を確保しています。	災害時の対応マニュアルを作成しています。年2回の消防署指導の訓練の他、月1~2回自主シミュレーション訓練を実施しています。防災点検を実施しコンセントはケースに入れるなど配慮しています。セキュリティ会社と契約しています。	火災だけでなく、地震、停電などあらゆる災害を想定したシミュレーションや、災害時備蓄品の充実、地域住民との協力体制の更なる強化を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉使いに配慮し職員同士注意するようにしています。また、その当日の言葉使い、表情などを「自分チェック」で振り返っています。	毎日自分チェック表で言葉使いや対応を振り返り、職員同士注意し合いながら利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに努めています。記録帳票類も適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物への外出支援の際、好みの物を選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを大切に市役所、銀行に行ったり仏様の仏花を頼まれ買い物に行ったりお寺さんのお参りなどを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問床屋さんが来られて散髪、ひげそりをご希望によりされており、ご本人の好みの服を着て頂いたり化粧品の買い物にも支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物は代替品を提供しており誕生日には好みの物を用意しています。時には食事の下ごしらえをして頂いたり盛り付け、片付けも行って頂いています。	献立や食材調達は業者に委託していますが、調理はホームで行っています。苦手な食材については代替食の提供、誕生日の特別メニューなど利用者の好みを反映した食事となっています。職員と利用者が共に和やかに食事しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェック表に記入しています。食べれる量だけ摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて歯磨きをして頂き、見守り・介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くことが難しい入居者様には排泄チェック表を活用してトイレ誘導などの支援をしています。	排泄チェック表を作成し、時間毎にあるいはサインをキャッチしてさりげなく声かけ、トイレ誘導しています。身体状況に応じてリハビリパンツ、布パンツ、パットを使い分け、夜間もトイレ誘導するなど排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を飲んで頂いたり栄養士による献立作成やラジオ体操をし予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望により、午前、午後に入浴または時間、曜日に合わせるようにしています。また入居者様により職員2人介助にての入浴の支援をしています。	週2回以上を目途とし、日曜以外の毎日、午前、午後とも入浴可能となっています。重度の利用者も2人介助でゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様には居間でお話しをしたり、あたたかい牛乳を飲んで頂いています。またお腹すいて眠れない方にはおにぎりを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の一覧表を作成しています。また服薬時には本人の名前、月、日を声を出して他の職員ともに確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできることをして頂き、張り合いをもてるようにおしぼりたたみ、テーブル拭き、お盆消毒、ゴミ集め、花の水やり、手すり拭き、台所の片付けなどの役割を持って頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホーム前の家庭菜園にて収穫したりホーム前を散歩したり外へ出掛けたり希望があれば計画を立てて支援しています。	日常では近隣への散歩、買い物、家庭菜園での収穫等で外気に触れるようにしています。また、レク係を中心に計画を立て、ドライブを兼ねた食事や、買い物ツアーなど積極的に外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診やデイケアに行かれた帰りにご本人所持しているお金で買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に姪っ子さんに電話したり息子さんに手紙を書いたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように季節の花を飾ったりしてゆったりと過ごして頂けるようにしています。	廊下、浴室、トイレ等の共用空間は広く、手すりをつけ使い易くなっています。居間や廊下には季節の装飾や絵画、利用者の書などが飾られています。廊下にテーブルとソファを置き、喫煙や休憩の為の場所を作っています。加湿器や空気清浄機を設置し、快適な環境となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のはしにソファなどを置いて独りになれるスペースを作っている。また喫煙される入居者様には喫煙場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを自宅から持ってきて頂いており仏壇を持ってこられている入居者様もいます。	居室は物干しが備え付けとなっています。利用者はそれぞれ使い慣れた家具、生活用品等を自由に持ち込み、写真や作品等が飾られ、居心地良く安心できる居室となっています。また温湿度計を設置し快適に過ごせるようにしています。家具の配置も利用者が決めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な入居者様には手すりを使用させて頂いております。		